

2-4

天草景観形成地域の色彩ガイドライン

2-4-1 天草景観形成地域の範囲

天草景観形成地域は、下図に示した天草諸島北部の有明海沿岸地域です。

地域は、景観特性や将来の景観の変化の可能性を勘案して、さらに3つのゾーンに分けられます。

- 1ー大矢野島周辺景観形成ゾーン
- 2ー沿道景観形成ゾーン
- 3ー本渡・五和景観形成ゾーン

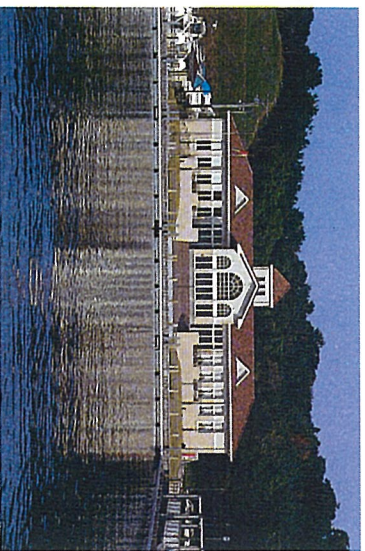


写真 海洋性リゾート施設—上天草市

2-4-2 景観づくりの基本的考え方

天草景観形成地域は、青く美しい海に接し、緑豊かで変化に富んだ海岸景観を有しています。また、これらの豊かな自然を背景とした情緒豊かな農漁村や漁港等が点在し、あわせて多くの歴史的・文化的資源も残されています。

近年においては、こうした豊かな海と海岸線をいかしたリゾート開発の可能性が高まっています。天草景観形成地域においては、地域の自然や歴史的・文化的資源をいかした豊かで活力ある海洋リゾート地らしい景観の形成を図るため、次の基本的考え方に沿った景観形成を進めます。

- 1ー豊かな海や海岸線をいかした景観形成
- 2ー緑と地形をいかした景観の形成
- 3ー農漁村景観や歴史性をいかした景観の形成
- 4ー道路や海上からの眺望に配慮した景観の形成

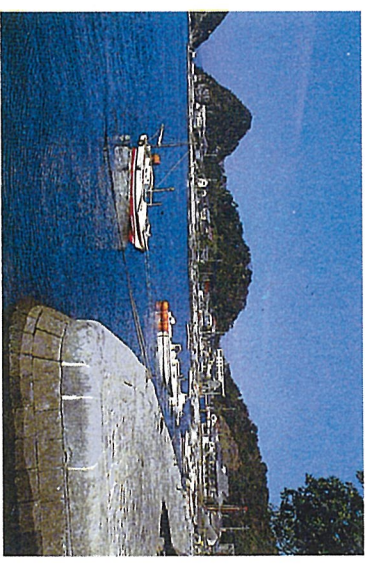


写真 宇城市西港の穏やかな海

● 区域

区域	天草市	今釜町の一部分
宇城市三角町	三角浦の一部分	今釜新町
〃	波多	小松原町
〃	戸馳の全部	浜崎町
上天草市大矢野町	登立の全部	本渡町本戸馬場の一部分
〃	〃	本渡町広瀬の一部分
〃	上	本町下河内の全部
〃	中の一部分	本町新休の一部分
〃	湯島の全部	北浜町の全部
〃	維和の一部分	旭町
〃	阿村	佐伊津町
〃	今泉	五和町御領の一部分
天草市有明町	楠浦の一部分	鬼池
〃	大浦	上野原
〃	須子	城木場
〃	赤崎	井手
〃	上津浦	下内野
〃	小島子	荒河内
〃	大島子	
〃	志柿町の一部分	
〃	瀬戸町	
〃	亀場町亀川	
〃	東町	
〃	太田町	
〃	南新町	
〃	栄町	
〃	港町	
〃	東浜町	

● 本渡・五和景観形成ゾーン

● 大矢野島周辺景観形成ゾーン

● 沿道景観形成ゾーン(A-1)

● 沿道景観形成ゾーン(A-2)

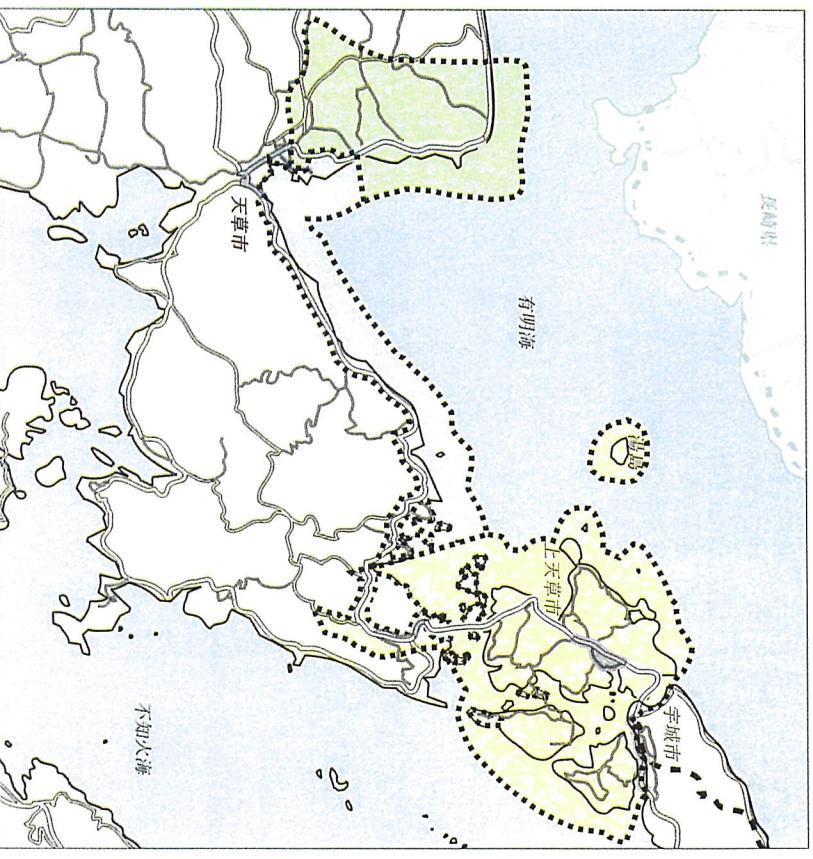


図 天草景観形成地域の範囲とゾーン区分

2-4-3 天草景観形成地域の景観形成基準

■表 天草景観形成地域の景観形成基準(建築物等に関するもの)

建築物	外観	色彩
大矢野島周辺	本渡・五和	沿道景観形成ゾーン
景観形成ゾーン	景観形成ゾーン	A-1 A-2
<p>外壁及び屋根の色彩は、周辺の集落、町なみ等の建築物や周辺と調和した落ちついたものを用いるものとする。また同一敷地内における建築物は、色調を統一するとともに、多色の使用は避けるものとする。</p> <p>観光、宿泊施設の屋根、外壁の色彩は、自然や一般住宅の外壁、屋根の色彩は、できるだけ地域の背景との調和に配慮するものとする。け明度、彩度とも低いものを用いるとす 一団の別荘については、色彩の統一性配る。</p>		

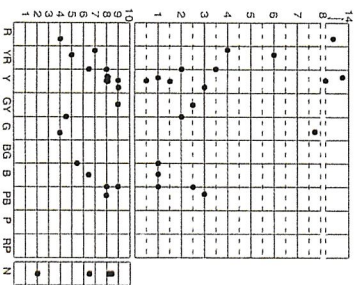
※沿道景観形成ゾーンA-1:国道266号、324号の内、自然景観地沿線
 沿道景観形成ゾーンA-2:国道266号、324号の内、商業集積地

観光、宿泊施設の屋根、外壁の色彩は、自然や一般住宅の外壁、屋根の色彩は、できるだけ地域の背景との調和に配慮するものとする。け明度、彩度とも低いものを用いるとす
 一団の別荘については、色彩の統一性配る。

2-4-4 天草景観形成地域の色彩景観の現況

さまざまな色彩の中、小規模施設

天草景観形成地域には、物販店や飲食店等をはじめとした中、小規模の施設が多く見られます。これらの基調色は建築物の色彩としては鮮やかすぎない色彩のものが多く見られます。鮮やかな色彩は人目を引きやすい反面、海への開放感を奪ったり、標識やサインなどの所在を見にくくするなどの難点もあります。また、日差しが強い天草地域では、色褪せるのが早く、短いサイクルでの塗装や改修が必要になります。



色相、トーンともに幅広い範囲に分散しています。中には鮮やかな赤や黄、緑などを基調にしている建物もみられ、目立つことだけを意識した建物が少なくないことがわかります。

■図 現状における外壁基調色の分布

2-4-5 天草景観形成地域の色彩ガイドライン

明るい海洋性リゾートを目指す

天草景観形成地域では、天草の海と対比が少ない、明るく開放感のある色彩を基調とし、これらの建物が連なることにより、明るい海辺のリゾートにふさわしい色彩景観をつくりたいことを目標とします。

わかりやすく安全な市街地景観をつくらう

市街地に建つ建物や広告物などは、標識やサインなどの色彩以上に鮮やかな色彩を用いないようにし、わかりやすく安全性の高いまちなみづくりを目指します。

漁村では地域に受け継がれてきた色彩を大切にしよう

天草景観形成地域内には、多くの漁村集落が点在しています。これらの集落では、古くから用いられてきた木材やしゃくい等の建材をいかし、天草の伝統的な集落景観を保全していくことを目指します。

■表 外壁基調色の色彩ガイドライン

ゾーン	避けた方がよいトーン(●)
大矢野島周辺 景観形成ゾーン 本渡・五和 景観形成ゾーン 沿道景観形成 ゾーンA-1	明青色、晴青色 鮮明色
沿道景観形成 ゾーンA-2	鮮明色

■表 外壁基調色の推薦トーン

ゾーン	推薦トーン(○)
白、明灰色 明褐色	

※1—表面に着色を施していない木材や土壁、金属板、スレート、ガラスなどの素材色は、この色彩ガイドラインの適用を除外します。

※2—各ゾーンの色彩の範囲は、19ページの一覧表を参照して下さい。

2-4-6 天草景観形成地域にふさわしい色彩(大野島周辺景観形成ゾーン、本渡・五和景観形成ゾーン、沿道景観形成ゾーンA-1)

海洋性リゾートの明るくいイメージを大切に

大野島周辺景観形成ゾーンや本渡・五和景観形成ゾーン、沿道景観形成ゾーンA-1では、開放感のある海洋性リゾートにふさわしい明るい色彩を基本とします。

また、穏やかな自然の色彩を脅かすことのないように派手な色彩の使用は避けます。

海辺の建物は、白、明灰色、明穏色などを中心に色彩選択にあたりと良いでしょう。

一方で、入り組んだ海岸線と急峻な地形を有するこのゾーンには、深い緑におおわれた環境も少なくありません。

このような地区では全体に明度を下げ、周辺との対比をやわらげるように配慮してください。

■大野島周辺景観形成ゾーン、本渡・五和景観形成ゾーン、沿道景観形成ゾーンA-1の推薦配色

全体的に明るく軽快感のある明穏色が基調になっていきます。特に高層の建物はよく目立ちますので、閉塞感のある暗い色彩や鮮やかな色彩を基調にしないようにしましょう。規模が大きくなると彩度1程度の色彩でもかなりの色味を感じるものです。

(5Y9/1)				N-30(N3,0)
19-85B(10YR8.5/1)				N-95(N9,5)
(2.5R7/1)	25-85A(5Y8.5/0.5)	19-90B(10YR8/1)	25-80B(2.5Y9/1)	22-40D(2.5Y4/2)
天草ビクターセンター	宿泊施設(上天草市)	宿泊施設(上天草市)		

■大野島周辺景観形成ゾーン、本渡・五和景観形成ゾーン、沿道景観形成ゾーンA-1の推薦色

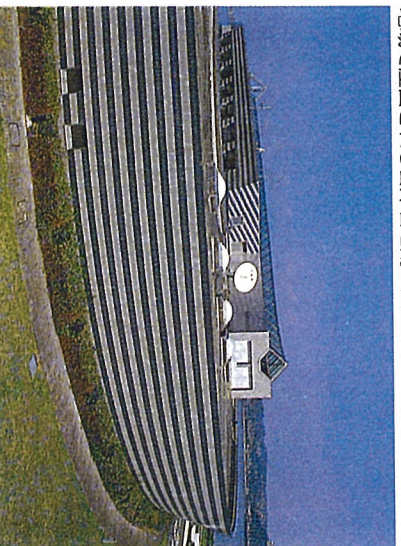
●白	N-95(N9,5)	N-90(N9,0)	●明灰色	N-85(N8,5)	N-80(N8,0)
●明穏色	15-85B(6YR8.5/1)	19-90A(10YR9/0.5)	19-80C(10YR8/1.5)	22-90B(2.5Y9/1)	(5B68/0.5)
					(5P88/0.5)

■写真 大野島周辺景観形成ゾーン、本渡・五和景観形成ゾーン、沿道景観形成ゾーンA-1にふさわしい色彩の建物

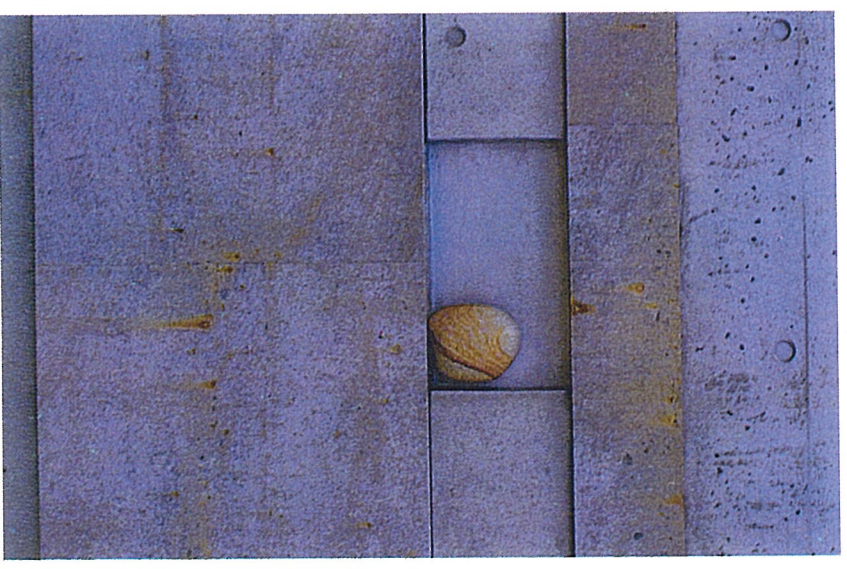
- 左上・右一地域で産出される合津石を外壁材として、あるいはアケセントとして要所に用いています。地域の自然が生み出した現場の建物は、その地域の景観とも調和しやすいものです。
- 左下—カールグレーとベージュのタイルで外壁を構成しています。いずれも鮮やかさを抑えたおとなしい色彩ですが、水平線を強調したデザインが海辺らしい快感をダイナミックに表現しています。



地域で産出される合津石を用いたビクターセンター—上天草市



建物の形態とあわせたダイナミックな配色—上天草市



ビクターセンターにアケセントとして用いられた合津石—上天草市

2-4-7 天草景観形成地域にふさわしい色彩(沿道景観形成ゾーンA-2)

沿道の建物の明るい色彩で連続性をもちたせよう

沿道景観形成ゾーンA-2では、天草の明るい空にふさわしい、白や明灰色、明穏色を基調とした建物で色彩の帯をつくり、さわやかな海辺の街道を演出します。

こうした連続性を妨げる規模の大きい広告物や簡易広告物の掲出は極力避け、街道を通る車か

ら明るいまちなみが見えるようにします。

特に、現況において派手な色彩が多く見られる小規模の飲食店やみやげ物店などは、地域の景観をつくる一員という自覚のもとに、目立つことばかりを目的にした色使いを避けるようにしましょう。

■ 沿道景観形成ゾーン(A-2)の推薦配色

(10YR8/0.2)	(7.5YR8/2)	25-90A(5Y9/0.5)	(5B9/0.5)	(5G9/0.5)
集合住宅(天草市)	飲食店(上天草市)			

同じ沿道沿いの建物は全体に明るいトーンで基調色をそろえます。
また、沿道の建物がアクセントカラーを統一し、海辺のまちらしいイメージづくりを積極的に行っていくことなども考えられます。

■ 沿道景観形成ゾーン(A-2)の推薦色

N-85(N8.5)	N-80(N8.0)	● 明灰色	N-95(N9.5)	N-90(N9.0)
15-65B(5YR8.5/1)	19-90A(10YR9/0.5)	19-90C(10YR8/1.5)	22-90B(2.5Y9/1)	(5B68/0.5)
				(5PB8/0.5)
				● 明穏色

● 白

● 明穏色

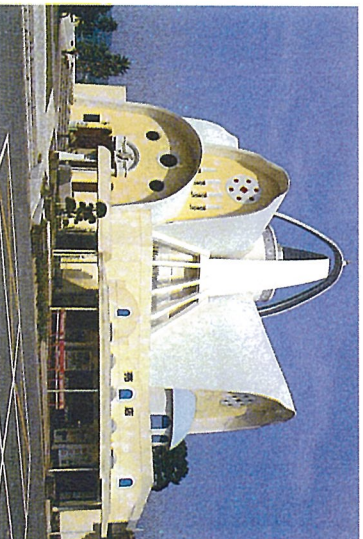
■ 写真 沿道景観形成ゾーン(A-2)にふさわしい色彩の建物



アクセントカラーをG(緑)系色相で統一したカソリンスタンダー上天草市



明穏色の建物が続くまちなみー上天草市



明るいトーンで構成された天草四郎メモリアルホールー上天草市

● 左ーアクセントカラーに統一感をもたせ、すっきりとした外観にまとめられています。
● 右ー明穏色の建物が続き、広告物を最小限に抑えた風景には海辺の街らしい開放感があります。

● 右ーアクセントカラー性の高い建物の周辺では、トーンをそろえるなど、アクセントカラーのイメージを損なわないような配慮が求められます。

